



MA日本キックボクシング連盟
マッハ士道館ドリームマッチ
6月26日●東京・後楽園ホール

○これが減点の対象となったシティサックのヒザ蹴り。背中を打つこと自体は問題ではないが、ロープを掴んでの攻撃はマズかった。「私が勝っていた。ヒジなしではもうやりたくない」(シティサック)

●セミ・ファイナル/日本・タイ国際戦/66*。契約3分5R(第12試合)
(MA日本)ウェルター級暫定王者
△佐藤堅一(士道館所属、66、68*、26歳)
(5Rドロー0-1) ※採点=48:49、49:49、49:49
△シティサック・トー・アヌソン(タイ、68*、30歳)
(元ラジャダムナン・ウェルター級王者)
※ヒジなしルール、尻ロープを掴んでの攻撃でシティサックに減点1あり



○シティサックの得意のヒザ蹴り。あれは完全に故意。でもあそこですぐにやり返せない自分の精神的な甘さに腹が立つ。士道館を背負う者として失格です。(佐藤)



背中を見せた「魔人」

技術じゃない。自分の精神が問題 控室に低く響いた「魔人」の叫び声

「みんなの全勝を止めてしまったゴメン。俺、わかったよ。精神なんだ。技術じゃない」
控室に入るなり、佐藤は士道館の後輩たちに頭を下げた。この日、士道館にとって初めての引き分け。それまでの、いいムード、を断ち切ってしまったことを詫言じたのだ。傍らからみると、佐藤は頑張った。もともとシティサックはJウェルター級で、佐藤はライト級(7ヵ月前まではフェザー級)と体格的なハンディがあるにもかかわらず序盤から積極的に仕掛けていく。「士道館は侍と一緒。体重なんて関係ない」と潰されることを覚悟での勝負だ。そんな佐藤に対して、シティサックは首相撲からのヒザ蹴りで攻めようとする。それも佐藤が背中を向けても打つことをやめないほどのしつこさ。ムエタイ特有のアリ地獄のような攻撃だ。これで完全にポイントを取られたように見えた佐藤だったが、シティサックも反則で減点をとられ、結果は痛み分け。佐藤は、「もう少し僕の心に士魂があれば」とうなだれるばかりだった。(布施)

○「自分の力を出し切れれば、勝てる相手だった。向こうが途中でバテていたのはわかったけど、そこで攻めきれない自分がみじめですよ」と佐藤。ヒザ蹴りで(?)左眉を切られていた

ラウンド	岡林	島田	松田
1	10	10	10
2	10	10	10
3	9	9	9
4	9	10	10
5	10	10	10
計	48	49	49

○パンチでラッシュを仕掛ける佐藤。スタミナでは明らかに上回っていた



士道館の若き士、武藤孝行 無敗の快進撃で王座奪取!



勝ちまくるぜっ!

勝って

勝って

●MA日本ライト級王座決定戦3分5R第12試合
前戦2戦
○武藤孝行(士道館所属、60、4*、23歳)
(延長R判定3-0) ※採点=10:10、10:10、10:10
●井上哲(山本ジム所属、60、6*、30歳)
(前戦1戦)
※武藤が王者となる。5Rドロー0-0(採点=49:49、50:50)
※延長時間は5分。王座決定戦のため延長Rを行った

ラウンド	井上	武藤	井上	武藤	井上	武藤
1	10	10	10	10	10	10
2	10	10	10	10	10	10
3	10	10	10	10	10	10
4	10	9	10	10	10	10
5	9	10	10	10	10	10
計	49	48	50	50	50	50
延長	9	10	9	10	9	10



○須田達史士道館革命塾代表に肩車されて、武藤は王座奪取の喜びを全身で表した。無敗のまま王座に就いた武藤は、「技術も精神的なものも、もっと高めていきたい」と今後への課題も忘れなかった

○得意のヒジ打ちを何発も放った井上だが、試合を制するまでのダメージは奪えなかった。接戦に惜敗したことについて、「向こう(武藤)が気持ちで上回っていたんじゃないですか」とコメント

士道館主催の今大会、士道館所属で、デビュー以来6戦6勝と勢いに乗る、武藤が初めて王座に挑んだ。ブレックスチャーはありましたね。期待をものすごく感じたんで」と語る武藤。得意の攻撃は、スピードと威力を兼ね備えたコンビネーション。一方の対戦相手、井上が、よく切れる。ヒジ打ちが得意ということもあって、スリリングな展開が予想された。そして試合は予想を超える、激しい打ち合いとなった。パンチのワンツーから流れるように蹴りをきめる武藤に対し、左のフックで距離を詰め、ヒジ打ちを放つ井上。両者ともにダウンを奪えなかったが、王座決定戦に相応しい白熱した試合が最後まで続いた。勝負は延長Rにもつれ込み、僅かながら積極的かつ的確に攻撃した武藤が王座を奪取。試合後、「今日の試合も課題はいっぱいあって、ひとつひとつ直して、チャンピオンに相応しい選手になりたいです」と語る武藤は、ほっとした表情を見せた。ブレックスチャーのなか、安定した実力を発揮した新王者、武藤。快進撃は、まだまだ続きそうだ。(中村)



○延長R、積極的に攻める武藤は右バック・ブローを放つ。パンチと蹴りのコンビネーションに加え、技の多彩さも武藤の持ち味

